



國家圖書館編

東亞同文書院 中國調查手稿叢刊

8

國家圖書館出版社

六月四日

六月三日

國家圖書館
編

東亞同文書院
中國調查手稿叢刊

8

第八冊目錄

昭和二年（一九二七）旅行日誌（第二十四期生）

瓦本勝利	第十卷第五編		一
木谷安熊	第十一卷第一編		八七
宮脇小源太	第十一卷第二編		一七五
鎌田健吉	第十一卷第三編		三二九
岡田信一	第十一卷第四編		四二七
二井内泰彦	第十一卷第五編		四九七

昭和二年度

佛領印度支那旅行日誌

第二十四期生

瓦本勝利

船は歐洲航路の箱根丸です。丁度李王船下の

歐洲の順道の途次にあうせられ七のそや同船の乗
とてなるわけです。船のとりうは二隻の艦載れ

雷艇二隻重の警戒と所をしんた。

大各先瑞区もジャバコ行ととかで来る所られま
した。

一少く船の出帆一たのけもろ三時過いんた。あんや
り甲板にもつて兩段で行しと海に花弁ふりも

出下すんた。

吳松沖の約二時間潮待ちし一少く大海に集

り出すのみもう晴晴なる所もした。甲板に所れ
は少し寒い所かし三層室に入れば暑苦しい所が

し可ぬか多ふ氣がする。是の切えへつとにむじり

とみまゐり下。南洋班と一緒のりにはよかひす。
色々の事が方へおされの中へ寝就かれますんでした。

十六日 晴

(船中)

船中 航海です。少しづらひ荒れた方
が暖かへる。めーかまゝ居へるのにおーあんこ
大元です。 今福建省の沖あたりをしよう
島影は一つも見えなせん。いさか無聊です。甲板
で字を算と採る。 英國へ帰るとか、六、職工連と
テフヤズンフをーかりし日を過しました。

夕方李王妃殿下の上甲板へ散歩姿を見え
る事が出来おす。 夜は夜とて、とて無聊
です。 トラップもハモエカにわあきて早くに寝に就

をきいた。

六月二日

晴

(船中)

鏡の字は破る一破る船は南へくし進んで居る。
口目と着るが増す好に思われます。何れか島影
のふりか見えます。

船中生活はたゞやはる、着るはむらん好です。
まるで退屈なものです。明日の香港王陸の侍
れそうです。

ホムスに在る十五年とか、ふん人の色々話しました。
かたり得る所があります。

夕方一同で大倉光緒氏に面会して、日取と甲板
の船十味、いよいよ橋子と並べての生饅頭です。

三月三日

(香港工陸)

午前八時入港。只の四日間の船中生活ですが、其の退屈さには驚く。——船中我々ですが、からう。迂一步陸に仰。一時はほんとと大奮起した。でもさすがに香港は暑くありませう。南に近づいた事を、実感——した。青々と

一、此並木の強い日光が輝りつけ、居るの我見は、いりり
汗が、ぐく出て来ます。

今日は King's birth day だ、と。それで吉岡旅館
に着し、やがや休む暇もなく早速 Happy Valley の
大観式を見物に行きます。各軍砲台からは
大砲を撃ち出す。飛行機は、何十台となく飛ん
ますし、と、この光景は、さういふ。

ちよつと領事館のあたりに行き、其の所で先軍細
工を、三村物産の訪問します。

午後、パークに参ります。僕は疏石の森、とい、

氣持よく、香港全市を臨むの景を見下す。其の如
か、めり又すばらしいもので、来て来たの根柢丸
か、少し見えます。

夕刻 同香港島 洞と一ヤリあり。自動車は
 山を登り谷を下り。村には二ヶ荘一ヶ教会堂のほ
 りを通ります。時には奇岩を海水浴場を通ります。
 平和な漁村もあれば断崖絶壁もあります。あかり
 のぬつた道を気持ちよし自動車は進みます。とても
 愉快なドライブです。

六月四日 晴

(香港滞在)

午前十一時総領事館訪問。端午の節句は休日な
 りですが、李王殿下やあまの妻の朝むけ事を執っ
 て居るのをみる。近き衛生上の注意をうけ(殊に海防
 は目下コレラ流行地と指定されて居る為)と付けよと
 (事) 予備調査の表 書籍二冊と借りきた。

午後郵船会社に先輩津村壽吉氏と談ふ。

二時過旅田館へ下福洋行の吉吉山松之助氏の来

訪を受けあはれ。色々病状の就き様を御存支那の米に

就き此所と承て得る所ありき。此調査資料を

申して書籍一冊を拝借する事。出来ました。

明日午前時の汽船にて東京見物に行き其の準備

備に取らかりました。本日寒暖計は九十度を示

しとします。暑く。

六月五日 曇、雨

(一) 廣東滞在

船は夜中に出帆したるをす。途中雨。降りおし。其

の途一とつて大助りです。

午前八時廣東に着。革命の本家本元ですもの

所中至所傳單をらけむす。然もそれが皆鐵力
で作つた永久的なのには驚きました。

オーストリア・スチー、端午・ラント・ミンチー。日曜と四日も
続く休の日に送る還した金を取れぬのを其の
文書の裏、形四、山亭、雨君か、来香港に帰る事
に決りまして。まだ時間があるのを同一先輩、三木原
勉次と訪問して貰う。晝飯のあちうになうと別
れまして、和達三人は一日所東に滞在する事になり
先輩の紹介で東洋館に宿を取りました。
午後伊藤、森、おぼろ、先輩、金山、芳夫氏と訪問。
四同縣の先輩のいすから随分歓待して貰う。
同日の夕方、ぬて自動車に所東を一周しました。
然し小雨が降つて居るのを十分に見物に来た

かつては残念なり。

所東は素衣と云ふだけでは、一日です。通
リ市中と見物と云ふだけでは。

六月六日 晴 後雨

朝八時所東と出発。東は昨夜から、
多し景色を見る事、出来ぬ。今、
良し見られ。香港へ着くと、愉快に申す。

通一なり。

吉原旅館へ帰り着く。三時頃、銀行との
交渉の結果は、やはり明日に決まると云ふ。
事、所、所、海防行きの、
帆なり。心配なり。下、ない、事、

は、出帆。日、延び、事、が、
本船会社の、毎、日、合、せ、る、結、果、

6
判断—またそれと月拘—下—ました。

夕刻まで予備調査—下—ました。

夜は又月—所見物—押し出—ました。

六月五日 雨

(香港滞在)

午前十時過ぎ、重々南班の連中が到着—ました。

以来もずいぶんすわ—と、かく積—詰—の花が咲—

ました。

と金曜日の金—を定取—る。其—の—の—領事館—に何

—信用の本—を返—ました。

相—交—する。暑—い日—です。でも午後猛烈—に驟雨

が来—る—の—を—し—たり—ました。

同九龍方面—に見—察—する—と—ある—から、私は少し風邪